

日本活断層学会 2020 年度秋季学術大会開催報告

日本活断層学会 2020 年度秋季学術大会実行委員会

2020 年 11 月 22 日（日）・23 日（月祝）、日本活断層学会 2020 年度秋季学術大会が開催された。本大会は、当初、富山で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン開催となった。参加者は、会員 87 名・非会員 9 名であった。一般研究発表では、8 件の口頭発表と 10 件のポスター発表が行われた。加えて、各賞の表彰式とシンポジウム「活断層に関連する地形・地質の保護・保全の現状と展望」も行われた。

22 日（日）は午前から Zoom を用いた一般研究発表（口頭）が開催され、8 件の発表と質疑応答が行われた。講演終了後、学会賞と論文賞の表彰式が開かれ、宮内崇裕会長から賞状が読み上げられた。学会賞は、数値標高モデル（DEM）の解析ソフトである Simple DEM Viewer を開発した片柳由明氏が受賞した。本解析ソフトは、地形の解析や活断層の判読を容易にし、活断層研究に大きく貢献していることが評価されての受賞である。論文賞は、活断層研究 51 号に掲載された「熊本地震地表地震断層の阿蘇カルデラ内の完新世活動履歴-南阿蘇村黒川地区トレンチ調査-」（遠田晋次・鳥井真之・奥野充・今野明咲香・小野大輝・高橋直也）が受賞した。火山降下物の堆積速度が速い地域におけるトレンチ調査法の有効性を示すと同時に、伏在活断層の認定方法を再考させる意義を示している点が評価されての受賞である。なお、若手優秀講演賞は、翌日のポスター発表も合わせて審査が実施された（後述）。



左：学会賞受賞者と表彰状、右：論文賞受賞者と表彰状

22日(日)の午後は、シンポジウム「活断層に関連する地形・地質の保護・保全の現状と展望」が一般公開で行われた。本シンポジウムは、活断層学会主催、立山黒部ジオパーク協会共催、日本ジオパークネットワーク後援で開催された。Zoomによるオンラインと同時に YouTube によるライブ配信により、合わせて 130 名を超える参加があった。シンポジウムでは、活断層周辺の地形・地質の保護・保全に関する議論を深めるために、各地の実践例や活用事例について講演が行われた。とくに、日本各地で地質遺産の保護・保全や活用の実績が積み重ねられているジオパークでの取り組みなどが多く紹介された。題目・講演者は以下の 5 件であり、山岡勇太氏の司会により進められた。

- 丹保俊哉 「県立博物館が行う跡津川断層真川露頭の教育利用について」
森本星史 「熊本県益城町における天然記念物布田川断層帯の保存活用の現状と展望」
竹之内耕 「断層破碎帯の保全と野外展示
ーフォッサマグナパーク、糸魚川-静岡構造線の例ー」
新名阿津子 「ジオパークにおける活断層の保全と活用
ー伊豆半島および山陰海岸を事例にー」
山口 勝 「『活断層』×『ジオパーク』変動する大地 日本列島を語るコンテンツ」

総合討論では、山岡勇太氏から呉羽山断層での取り組みが紹介されたのち、講演者同士が質疑応答する形で各地での具体的な保全の課題などについて意見が交換された。活断層周辺の地形・地質は、教育や観光などにおいても重要な資源であり、その科学的な価値を理解するためにも研究者が貢献できることは多く、地質遺産の保護・保全を行っている団体などとの連携の重要性を知るシンポジウムとなった。



シンポジウムの総合討論に参加した皆さん

明けて 23 日(月祝)の午前には、Zoom を用いた一般研究発表(ポスター)が開催された。発表者による 2 分間のショートオーラル発表が行われたのち、Zoom のブレイクアウトルームを用いたポスター発表によって、各ルームで活発で熱心な議論が展開された。また、ポスターは Google Drive で閲覧できるようになっており、参加者はそれも見ながらの参加となった。

口頭およびポスターによる一般研究発表の若手優秀講演賞は、大会終了後に選考され、以下の4名が受賞した。

石澤堯史「断層活動に伴い生じた亀裂の充填物の放射性炭素年代測定に基づく断層活動時期の制約」(共著者：鳥井真之・遠田晋次・奥野 充・福田泰英・宮入陽介・横山祐典)

岩佐佳哉「布田川断層帯と日奈久断層帯の境界部の活動履歴-熊本県御船町高木における2016年地震断層のトレンチ調査-」(共著者：熊原康博・後藤秀昭・細矢卓志・竹内 峻・佐藤拓実・住谷侑也・西口颯真)

住谷侑也「2016年熊本地震の地表地震断層に沿った本震後の変位の分布とその特徴」(共著者：岩佐佳哉・熊原康博・後藤秀昭・竹内 峻・佐藤拓実・西口颯真)

吉見瑤子「平成28年(2016年)熊本地震における建物被害と地表地震断層分布の関係について」(共著者：遠田晋次)

前回大会に引き続き、本大会でも一般研究発表およびシンポジウムの参加者のうち、同時中継の環境で視聴した16名の希望者に対してCPDポイントの認定を行った。CPDポイントの認定は、実業界や研究機関からの参加者にとって参加の動機の一つであると考えられ、広く一般研究発表およびシンポジウムにおいて継続的な実施が望まれる。

今回、本学会初のオンライン開催の大会となった。その準備のため、行事委員会に当初の富山開催の大会実行委員と総務委員会からのメンバーを加え、短期間に数多くの検討と準備を行ってきた。また、発表者・講演者・参加者には事前にオンラインの接続確認や事前打ち合わせ、ポスターの事前提出などの協力をいただいた。お陰様で、当日は大きなトラブルがなく実施することができた。今後は、改善点なども検討し、今回得られたオンライン開催のノウハウを次に繋げていくことが大切である。

最後に、シンポジウム講演者および参加者の皆様、準備・運営にご尽力頂いた学会事務局および関係委員会の皆様、アルバイトを引き受けて頂いた山口大学と富山大学の学生をはじめ、関係各位および機関に深く御礼申し上げます。

日本活断層学会 2020年度秋季学術大会実行委員会

安江健一・吉見雅行・香川敬生・楮原京子・石黒聡士・越後智雄・高田圭太